SAPIX 2026

『てっぺんの葉っぱ』大賞

心の中はおしゃべりだけど

4年　M・Mさん

「静かで、よ計なことを言わないよね。パパにそっくり。ママはよ計なことばかり口から出るからうらやましいわ。」と母に言われることがある。けれど、わたしの心の中はとてもおしゃべり。色々な気持ちが行ったり来たりしていて、まとまりがない。みんなが正しいと言う意見も、良くないと思う考えも、まざり合いながら心の中にある。ただ、言葉にするときは、人を傷つけないように、自分もいやな思いをしないように何度も考える。だから、伝えたいと思いながら言えないこともある。

主人公のマチは、自分はものを考えるのが苦手だと思っている。でも、わたしはそうは思わなかった。マチは、自分の気持ちや相手の気持ちをいつも一生けん命考えている。そして考えすぎるあまり、うまく言葉にできないのだと思った。わたしも言葉を口にするときは何度も考えるので、マチに強く共感した。

数年前、やっていないことでクラスメイトに注意されたことがあった。そのとき、その子がおわびの言葉を聞きたそうだと思い、「ごめんね」と言ってしまった。本当のことより、相手の気持ちを優先したのだ。そしたらそのことで先生にしかられた。悲しくて忘れられない出来事だった。その後、クラスメイトと担任の先生に事実を伝え、自分の気持ちを大切にすることが、本当に相手と向き合うことにつながるのだと学んだ。

マチがイチョウの葉を持ち歩いていたのは、だれかが何とかしてくれないかなという願いや、自分を信じきれない気持ちの表れのように見えた。けれど、ユリアや先生と向き合い、自分で考えたことを少しずつ行動に移していった。そして葉っぱを手放し、自分の力で前へ進み始めた。

これからもわたしは静かに考える。けれど、自分の心は自分にしかわからない。てっぺんの葉っぱに負けない強い心を育てて、心のおしゃべりを言葉にする勇気を持ち続けたい。